

令和 8 年度 大津市立逢坂小学校いじめ防止基本方針

はじめに

2011 年（平成 23 年）の市内中学生が自ら命を絶たれた痛ましい事案以降、このような悲しみを再び繰り返してはならないという強い決意のもと、逢坂小学校においては、いじめ防止対策推進法（以下「法」といいます）、大津市子どものいじめの防止に関する条例（以下「条例」といいます）、大津市いじめの防止に関する行動計画に基づき、いじめの「未然防止」「早期発見」「早期対処」を柱に、いじめ問題に対する対策を進めてきました。

条例には、以下のような基本理念が定められています。

「全ての子どもは、かけがえのない存在であり、一人一人の心と体は大切にされなければなりません。子どもの心と体に深刻な被害をもたらすいじめは、子どもの尊厳を脅かし、基本的人権を侵害するものです。しかしながら、いじめはいつでもどこにおいても起こりうると同時に、どの子どももいじめの対象として被害者にも加害者にもなり得ることがあります。このようないじめを防止し、次代を担う子どもが健やかに成長し、安心して学ぶことができる環境を整えることは、全ての市民の役割であり責務です。」

この基本理念に則り、逢坂小学校では、過去の反省を忘れることなく、子どもの声や主体性を大切にしながら、地域社会全体で、いじめ対策に取り組んでいくことが重要であると考え、本校のいじめ防止基本方針を定めました。

全ての子どもたちが安心・安全に学校生活を過ごす事ができ、一人一人の笑顔が輝く学校づくりを進めるためにも、学校組織全体で、以降に示す取組を進めます。

目次

1	いじめ問題に関する基本的な考え方・・・・・・・・・・	2
	（１） いじめの未然防止	
	（２） いじめの早期発見	
	（３） いじめへの対処	
2	「いじめ対策委員会」の設置・・・・・・・・・・	8
	（１） 役割	
	（２） 構成員	
	（３） 関係する校内委員会等との連携	
	（４） いじめ事案対応フロー図	
3	その他いじめの防止等のための対策に関する重要事項・・・・・・・・	9
	（１） 基本方針、年間計画の見直し	
	（２） 基本方針、年間計画の公開・説明	
4	いじめ防止等に向けた年間計画・・・・・・・・・・	10

1 いじめ防止等のための対策の基本的な考え方

いじめ問題に取り組むにあたっては、「いじめ」にはどのような特質があるかを十分に認識し、日々「未然防止」と「早期発見」に取り組むとともに、いじめが認知された場合の「早期対応」に的確に取り組むことが必要であると考えます。法では、「いじめ」を以下のように定義されています。

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

本校では、このいじめの定義に基づき、「未然防止」「早期発見」「早期対応」に関する以下の内容について、組織的に進めます。

(1) いじめの未然防止

いじめはどの子どもにも、どの学校でも、起こりうるものであることを踏まえ、より根本的にいじめの問題を克服するためには、すべての児童を対象としたいじめの未然防止の観点が必要です。

このため、本校では、すべての児童が、より良い人間関係を構築できるような態度を育むことで、いじめを生まない環境づくりを進めます。また、家庭、地域その他の関係者に対し、学校での取り組み内容を説明し、協力を求めることで、地域社会が一体となった取組を進めます。

取組の基本となるのは、児童が、周囲の友人や教職員と信頼できる関係の中、安心・安全に学校生活を送ることができ、規律正しい態度で授業や学校行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくり、学校づくりを行っていく事であると考えています。学校のあらゆる教育活動の中で、すべての児童が自己存在感を感じ、自己決定の場を与えられ、共感的関係を育てる機会を設けることを大切にし、互いを認め合える人間関係・学校風土の醸成に努めます。加えて、児童自らがいじめについて学び、取り組む等の自主的・自治的な活動を積極的に支援し、児童一人一人が主役となる学校づくりも進めます。

そうした未然防止の取り組みについては、日常的な児童の行動の様子や欠席の状況を把握し、その状況に応じ、随時見直しを図ることで、より充実した取組を進めます。

については、上記のことに関して、本校では、以下のような取組を進めます。

① 子どもの主体的な参画

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
34	いじめ防止啓発月間を中心とした子ども主体の取組の推進	あいさつ運動やイエローリボン運動、いじめま宣言など、児童会および児童スマイル委員会が主体となった取組を通して、児童一人一人が主体的に関わる、いじめのない安心して過ごせる学校づくりを進める。

35	学校・学級及び個人のいじめ防止に関する取組目標の設定	・ 学校目標の周知を図るとともに、いじめのない学級づくりにつながる学級目標を設定し、学級の一員としての意識を高める。 ・ いじめ防止啓発月間の取組の一つとして児童個人や学級の「いじめま宣言」を考え、日頃の行動につなげる。また、掲示を行うことで、継続的に意識できるようにする。
----	----------------------------	--

② 子どもに対する教育・啓発

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
36	いじめが許されないことを理解し、子どもの解決力を育むための教育の推進	学年・学級経営の中で、よりよい集団づくりのために主体的に行動できる児童を育てる。また各学級の自治的な風土を醸成する。
37	インターネット上のいじめ防止を含む情報モラル教育の実施	情報モラルの意識を高め、インターネットを適切に利用できるようにするため、インターネット等によるいじめ対策の専門家を招いた出前授業を実施する。
38	相談することの大切さに関する啓発	日常的に相談することの大切さを伝えるとともに、定期的に行う「生活アンケート」を活用し、重ねて意識づけを図る。
39	子どもの心を豊かにする道徳教育の推進	・ 「友情」「生命尊重」をテーマとした教材での授業を実施する。 ・ 学年ごとの教具をすべて準備し、子どもの思考を深められるように努める。
40	自他ともに認め合う人権教育の推進	・ 自尊感情を高めることを意識した学級経営を行うとともに、普遍的な視点からの人権教育を実施する。 ・ 人権の大切さについて集中的に啓発する校内人権週間を設定し、全校で人権に関する標語を制作する。
41	分かりやすい授業づくり・子どもの存在や意見が尊重される学級づくりの推進	協働的な学びと個別最適な学びを往還的に取り入れた授業づくりを進め、主体的・対話的で深い学びを実現することで、児童一人一人の成就感や充実感の向上を図る。
42	思いやりの心を育てる異年齢交流の推進	縦割り活動やクラブ活動、児童会活動、5・5交流などを通して、異年齢集団のよさを生かし、上級生へのあこがれや下級生を思いやる心を育て、望ましい人間関係の形成を図る。

③ 教員に対する研修・支援

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
43	学校いじめ防止基本方針の策定、保護者・地域への周知	学校ホームページにいじめ防止基本方針を掲載するとともに、具体的にどのように取り組むかについての取組目標を示す。また、その内容について学校運営協議会において説明を行う。
44	保護者・地域に向けた子ども支援コーディネーター等学校への相談の呼びかけ	日常的に保護者からの相談を受ける体制を整えるとともに、学校通信や学年通信などを活用し、スクールカウンセラーなどの相談機関と連携が取れる日時について周知する。
45	いじめ対策に関する校内研修の実施	・年に2回以上、いじめ問題を含む生徒指導に関する校内研修会を実施する。 ・適宜、会議や打ち合わせ等を通して、重点事項や指導方法等について共通理解を図る。
46	いじめ事案への対応体制の整備及びいじめ事案に対応する教員への組織的な支援の充実	・定例の「支援・対策検討会議」において、児童や学級・学年の状況を共有すると共に、支援の方策等を検討する。 ・組織的な支援の必要性を周知し、教員間の連携を強化する。

④ その他（学校独自の取組）

取組目標
毎朝、教職員が校門付近や昇降口であいさつ運動を行い、児童と接する機会を増やすことで、児童の小さな変化にも早く気付けるようにする。
一部教科担当制を取り入れ、複数の教職員で児童の様子を把握することで、児童の小さな変化にも気付ける体制を整える。

＊学校いじめ防止基本方針は、「天津市いじめの防止に関する行動計画」に位置付ける取り組みのうち、学校が実施する施策の取組目標を記載しています。NO. 1～33の取り組みは、市・市教育委員会が実施する施策です。

(2) いじめの早期発見

いじめは、大人の目に付きにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけあいを装って行われたりするものです。しかしながら、いじめやその疑いを見逃してしまうと、より深刻な状況を招いてしまいます。そのようなことから、本校では、たとえささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階から学校のいじめ対策委員会が中心となり積極的に対応します。

そのためには、多くの大人が児童の小さな変化に気づく、鋭い観察力を高めることが必要です。このため、本校では、日頃から児童の様子をしっかりと見守り、教職員

間で定期的に共有します。わずかな兆候であっても、背景にいじめがあるのではないかと疑いをもって、いじめ対策委員会で対応について協議します。その上で、いじめを軽視することなく、事実関係に基づいて積極的に認知します。その際、個々の行為がいじめに当たるか否かの判断は、表面的・形式的にすることなく、いじめを受けた児童の立場に立って行います。

また、児童または保護者が、抵抗なくいじめに関して相談できるよう、学校は、定期的なアンケート調査や定期的な教育相談を実施し、いじめの実態把握に取り組みます。それとともに、児童または保護者が日頃からいじめについて相談しやすい雰囲気づくりに努めます。また、学校が家庭と緊密な連携をすることにより、学校と保護者との間の情報共有をし、児童の状況をきめ細かに把握するよう努めます。

加えて、より多くの大人が児童の悩みや相談を受け止めるため、保健室や相談室の利用、関係機関の開設している相談窓口について広く周知するとともに、地域関係団体や保護者に対しても協力を求めます。

については、上記のことに関して、本校では、以下のような取組を進めます。

① いじめに関する情報収集

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
47	いじめ等の早期発見のための定期的なアンケート調査の実施	毎学期「生活アンケート」を実施し、必ず複数の教職員で内容を確認した上で、気になる点があれば速やかに対応する。
48	いじめ等の悩みの把握及び教育相談の実施	日頃から児童との関わりを大切にするとともに、6月と10月に全員面談を実施し、児童の悩みや不安な気持ちに寄り添いながら教育活動を進める。また、気になる児童を把握した場合には、随時個別に面談を行い、いじめの早期発見に努める。
49	教職員による校内及び校門等における見守り活動の実施	朝の登校指導や休み時間の見守り活動を実施し、児童の様子を日常的に把握する。
50	日頃からの家庭との連携及び情報交換の実施	日頃から積極的に連絡を取ったり、家庭訪問を行ったりすることで、保護者と連携した支援の充実を図る。
60	「こころの健康観察」の実施	4年生以上の学級で毎朝「こころの健康観察」を実施し、個々の児童の状況把握に活用する。また、「SOS」や気になる変化が見られた場合には、即日対応する。

② いじめに関する情報共有

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
51	子ども支援コーディネーターを中心としたい じめの疑いを含めた 様々な課題に関する情 報の集約・情報共有	・ いじめ対策会議を開催し、子ども支援コーディネーターを中心に情報を共有した上で、対処や対策の方向性を協議・決定する。 ・ 生活アンケートについては、複数の教職員で内容を確認し、情報共有を行う。
52	いじめの疑いの段階で の翌課業日中の教育委 員会への速報	いじめの疑いがある場合には、緊急のいじめ対策会議を開催し、教育委員会とも情報を共有した上で、対処や対策の方向性を決定する。
53	保幼小中の連携や学年 を超えた情報共有の推 進	子ども支援コーディネーターが中心となり、日常的に保・幼・小・中間の連絡を密に行うとともに、連絡会等においても積極的に情報を共有する。

③ その他（学校独自の取組）

取組目標
毎朝、教職員が校門付近や昇降口であいさつ運動を行い、児童と接する機会を増やすことで、児童の小さな変化にも早く気付けるようにする。
一部教科担当制を取り入れ、複数の教職員で児童の様子を把握することで、児童の小さな変化にも気付ける体制を整える。

(3) いじめへの対処

本校では、教職員がいじめと疑われる場面を発見・通報を受けた場合には、一人で抱え込むことなく、速やかにいじめ対策委員会を中心とした組織で対応をします。被害を受けた児童を守り通すとともに、教育的見地から、毅然とした態度で加害児童を指導します。その際、謝罪や責任を形式的に問うことに主眼を置くのではなく、社会性の向上等、児童の人格の形成に主眼を置いた指導を進めます。

例えば、遊びや悪ふざけなど、いじめと疑われる行為を発見した場合、教職員はその場でその行為を止めます。また、児童や保護者から、「いじめではないか」と相談や訴えがあった場合には、真摯に傾聴し、被害を受けている児童や相談のあった児童の安全を確保します。

特に、インターネット上のいじめへの対応については、大津市および大津市教育委員会が作成している「インターネット上のいじめに関する対応マニュアル」に基づいて対応します。

いじめ対策委員会では、いじめの疑いがあった場合、直ちに情報を共有し、速やかに関係児童から事情を聴き取るなどして、いじめの事実の有無の確認を行います。事実確認の結果は、校長が責任を持って大津市教育委員会に報告するとともに、被害・

加害児童の保護者に連絡します。

なお、児童生徒の生命・身体又は財産に重大な被害が生じる恐れがある時や、いじめが犯罪行為として取り扱われるべきと認める時、もしくは、指導を行ってもいじめ行為が止まない時など、学校がいじめられている児童生徒を徹底して守り通すために必要と判断する場合は、所轄警察署等関係機関や、心理や福祉等の専門家と相談し、連携して対処を進めます。

このため、すべての教員の間で、いじめを把握した場合の対処のあり方について共通理解を図るとともに、迅速かつ的確に対処できるよう、平素から関係機関との連携に努め、情報共有する体制を構築します。

については、上記のことに関して、本校では、以下のような取組を進めます。

① いじめの対処

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
54	「いじめ対策委員会」の開催を通じた組織的な対応	いじめ対策会議を開催して情報を共有するとともに、担任、学年担当教員、子ども支援コーディネーター、生徒指導主任、教育相談主任、教務主任、養護教諭、管理職がそれぞれの立場から多角的に分析を行い、対応方針を立てる。
55	いじめ事案の解決に向けた対応（被害の子どもへの支援・加害の子どもへの指導等）	・ 迅速な対応を行うとともに、児童の気持ちに寄り添った支援や保護者への丁寧な対応を心掛け、早期解決を目指す。併せて、必要に応じて関係機関と連携する。 ・ 事案の経緯や背景を丁寧に把握し、それを踏まえた指導を行うことで、指導の効果を高め、加害児童が自らの行動を見つめ直し、より良い行動につなげられるよう支援する。
56	インターネット上のいじめへの対応	被害・加害以外の関係児童についても早期に把握し、被害の状況や範囲を確認した上で、適切に対応する。また、被害児童の苦痛が継続することのないよう、インターネット上の情報の削除に努める。
57	重大ないじめ事案が発生した際のアンケートや聴き取りによる適切な調査の実施	実態を的確に把握するため、情報提供しやすいアンケート内容を検討した上で、早急に実施する。
58	いじめ事案に関する情報の適正な管理・保存	全校共通の様式で記録を残し、いじめ事案報告書やチェックシートと併せて、適切に一括管理・保管する。
59	いじめ事案が生じたときの保護者との連携	被害・加害それぞれの立場に配慮し、児童や保護者の思いに寄り添いながら、把握した事実や学校の対応・指導、その結果や今後の方針、保護者への協力依頼について丁寧に伝えていく。

② その他（学校独自の取組）

取組目標
一部教科担当制を取り入れ、複数の教職員で児童の様子を把握することで、児童の小さな変化にも気付ける体制を整える。
いじめ対策会議だけでなく、教育相談や特別支援に関わる校内ケース会議等とも連携を図り、より効果的な支援・対応の方策を検討する。

2 いじめ対策委員会の設置

本校では、いじめの防止等に関する措置を実効的に行うため、法第 22 条に規定される組織として「いじめ対策委員会」を常設します。その役割等については、以下のとおりとします。

（１）役割

- ア) いじめの防止等の取組の年間計画を作成する
- イ) いじめの防止等の取組について、すべての教職員間で共通理解を図る
- ウ) いじめの防止等の取組の実施、進捗状況の確認を行う
- エ) 児童や保護者、地域に対し、いじめの防止等の取組についての情報発信やいじめに関する意識啓発のための取組を行う
- オ) いじめの疑いや児童の問題行動などに関する情報の収集と記録、共有を行う
- カ) いじめの疑いに関する情報があつた時には緊急会議を開催し、いじめの情報の迅速な共有を図り、教職員や関係のある児童等への事実関係の聴取、児童に対する支援・指導の体制・対応方針の決定と保護者との連携等の対応を行う
- キ) いじめとして対応すべき事案か否かの判断を行う
- ク) 重大事態に係る調査の母体となり調査を行う
- ケ) P D C A サイクルに基づき、毎年度、いじめの防止等の取組の検証を行うとともに、その結果等を勘案して、必要に応じて学校いじめ防止基本方針の見直しを行う

（２）構成員

いじめ対策委員会の構成員は、管理職、教務主任、子ども支援コーディネーター、生徒指導主任、教育相談担当、養護教諭、スクールカウンセラーとします。

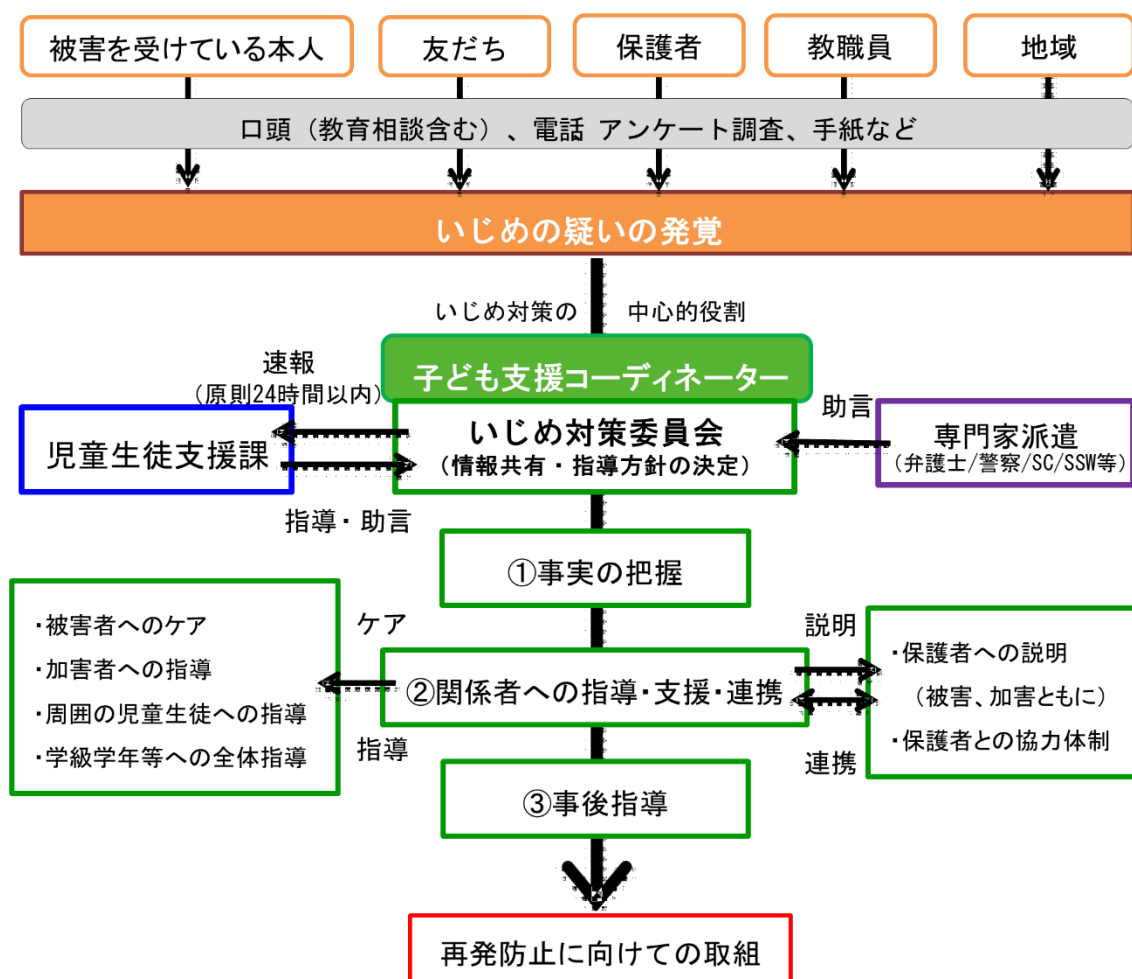
なお、個々の事案に応じて、関係の深い教職員を追加します。

また、事案の性質等、必要に応じて、心理や福祉の専門家、弁護士、医師、警察官（もしくは警察官 O B）・教員経験者など外部専門家の参加を得ます。

（３）関係する校内委員会等との連携

いじめの防止等の取組の実施に当たっては、児童支援委員会等と役割分担し、連携して取り組みます。

(4) いじめ事案対応フロー図



- (2) 学校のいじめ防止対策全般や基本方針の進捗状況の評価等を協議するため、「拡大いじめ対策委員会」を設置します。

その構成員は校長、教頭、教務主任、子ども支援コーディネーター、生徒指導主事等の学校教職員の他、学校運営協議会等の学校関係者としします。

3 その他いじめの防止等のための対策に関する重要事項

(1) 基本方針、年間計画の見直し

具体的な施策ごとに設定した目標について、その進捗状況を定期的に確認し、目標の達成状況（活動実績）を自己評価し、その結果について年度末に大津市教育委員会へ報告しています。また、評価に際しては、目標の達成状況（活動実績）を評価するとともに、それらの取組がいじめ防止にどのような効果があったのかについて考察し、取組内容や方法の見直しを検討します。このような取組を通して、策定した学校基本方針や年間計画をPDCAサイクルに基づき、毎年度見直します。

(2) 基本方針、年間計画の公開・説明

策定した学校基本方針や年間計画は、学校のホームページなどで公開するとともに、適宜、子どもや保護者、地域関係者にわかりやすく説明します。

4 いじめ防止等に向けた年間計画

月	活動内容・取組	備 考
4	職員会議〈児童生徒理解〉（①・②・③） 個別懇談会（②・④）	
5	第1回子どもを語る会（①・②・③） 児童クラブとの連携（①・②・③）	
6	いじめ防止強化月間（①・②・③） ・生活アンケート実施 ・クラスマネージメントシート実施 ・道徳の授業実践「生命の大切さ」「いじめ防止」等 ・いじめ撲滅標語「いじめま宣言」作成 ・拡大いじめ対策会議（第1回学校運営協議会）（④）	児童会を中心にした取組 の実施
7	学級懇談会（①・④） 休業中の児童の状況確認（①・②・④）	
8	いじめ問題に関する校内研修会（①・②・③・④） 第2回子どもを語る会（①・②・③） 拡大いじめ対策会議（第2回学校運営協議会）（④）	情報モラル教育に関連し た内容も含んだ研修
9	個別懇談会（②・④）	
10	いじめ防止啓発月間（①・②・③） ・生活アンケート実施 ・教育相談会（全員面談） ・道徳の授業実践「生命の大切さ」「いじめ防止」等 ・いじめ撲滅標語「いじめま宣言」作成 ・イエローリボン運動	
11	全校道徳参観（①・④） 拡大いじめ対策会議（第3回学校運営協議会）（④）	
12	人権週間（①・④） ・人権について学習した、標語・作文・ポスター等を作成	
1	ソーシャルスキル・ストレスマネジメントの実践（①）	
2	教育相談（②・③） 生活アンケート実施（①・②・③） 拡大いじめ対策会議（第4回 学校運営協議会）（④）	
3	今年度の反省・まとめ・申し送り（①・②・③・④）	
通年	朝のあいさつ運動（①・②） いじめ対策委員会（①・②・③）	

※いじめの未然防止に関すること…① いじめの早期発見に関すること…②

いじめの早期対応に関すること…③ 家庭・地域・関係機関等との連携に関すること…④